

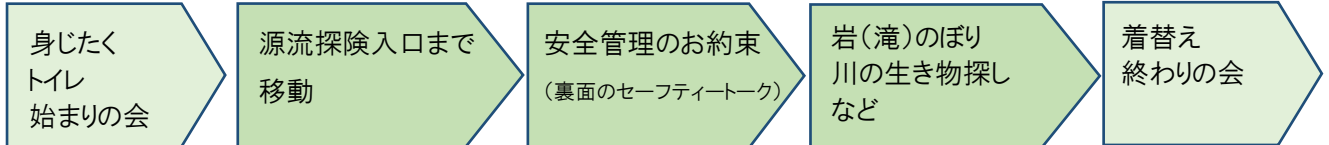
源流探険ってこんな活動

妙高青少年自然の家の敷地内には、清らかな沢が流れています。

透明度が高く、水温は年間を通して15℃前後、水深は平均15cm ぐらいですが、小さな滝つぼなどでは幼児の太ももが隠れるくらいの深さになります。

森に覆われた沢を歩く中で、諸感覚を使って水の冷たさや川の流れの強さを感じます。滝を乗り越えるたびにたくましくなっていく姿が見られ、長い道のりを歩ききってゴールするときには、自信に満ちた表情になります。

活動モデルプラン



予想される子どもの姿・こんな支援をします

源流の沢を進むことは、立派な探険です。「探険隊出発！」など声掛けをしてスタートすると、期待や意欲が高まります。どんどん活動場面が変わるので、その場その場を十分に楽しめるよう支援します。

水の冷たさに驚き、服や靴が水にぬれることに抵抗を感じ、石の上を渡り歩くような子もいます。



はじめは「えー！ここのぼるの？」などの発言もありますが、次第に自分の力で歩けるようになります。友だち同士で声をかけ合う姿も見られます。



日常生活の中ではあまり目にしない水辺(水中)の生き物に出会うこともあり、大きな喜びになります。



トンネルをくぐるゴールでは、暗さや冷たさに驚き、立ち止まってしまうこともあります。



十分に水の感触や冷たさに慣れるように、水に手をつけてみます。その後の活動で水を怖がらずにかかわることができるように、導入を大切にします。

安全確保が最優先ですが、自分の力で歩いたり滝を乗り越えたりできるように、危険でなければ手を貸さずに見守ることもあります。

サワガニや大きなカエル、きれいな花など、子どもたちの発見や驚きに共感し、好奇心を伸ばすよう声かけをします。カエルを触った後には必ず手を洗います。

自分の力でゴールした喜びを、共に分かち合いましょう。一人一人に声をかけ、それぞれ頑張ったことを表現することを通して整理するように声かけをします。

参加者の服装

長袖長ズボン

(綿ではなく化繊が良い)

シューズ

(濡れてもよく履き慣れているもの)

帽子

(雨具)

※水筒は持たない



施設支援者の持ち物(一例)

トレー(自然物を共有するときに便利)

剪定ばさみ

ルーペ

活動マップ



安全管理 (セーフティトークで、事前に周知しましょう)

【手はつながない】

自分の足で上りきる達成感を味わいましょう。また、足元が不安定なので転倒した場合の安全確保になります。

【足元に注意！】

川底には浮いた石があったり、急に深くなったりしているところがあります。ジャンプや走らないようにしましょう。

【跳ね枝に注意！】

前の人がよけた枝が跳ね返ってくることを考慮して、少し間をあけて歩くと良いでしょう。